



病院NEWS

no. 342
2012
12/01



The Hospital News, Faculty of Medicine Kagawa University



ささえる、つながる、リードする。
香川大学医学部附属病院
KAGAWA UNIVERSITY HOSPITAL

香川県木田郡三木町池戸1750-1 発行人/病院長 千田 彰一

厚生労働省「医療情報データベース基盤整備事業」への参加について

医療情報部 准教授 上村 幸司

香川大学医学部附属病院は、「医療情報データベース基盤整備事業」に参加しています。本稿では、事業の概要と意義について簡単に紹介します。

2004年に米国では、長期使用による心臓血管系リスクの増加が確認された消炎鎮痛薬Vioxx(一般名Rofecoxib)の回収が行われましたが、その判断に至るまで発売開始から5年を要しました。一方、ハーバード大学の研究者らによる調査の結果、回収が行われる2年前に心臓血管系リスクの増加が明確に示され、薬剤疫学的手法を用いることでより早期に医薬品安全対策が実施できる可能性が示されました。

この結果を受けてアメリカ食品医薬品局は、2008年に「センチネル・イニシアティブ」を立ち上げ、様々な医療機関の電子カルテシステムやレセプトのデータから構築された医療情報データベース(DB)を活用した、市販後安全性監視及びデータ解析を開始しました。2011年には9900万人のDBが構築され、2013年には1億人規模のデータ利用を目標としています。

日本においても薬害肝臓事件などの問題をふまえ、厚生労働省は、2011年に「日本のセンチネル・プロジェクト」に着手しました。本事業では、医薬品の安全性情報を把握するため、協力医療機関に保有される電子的な医療情報を収集するDBを構築し、蓄積された情報を利用することで医薬品の安全対策を向上させることを目的としています。

現在、協力医療機関として、本学を含め、東北大学、千葉大学、東京大学、浜松医科大学、九州大学、佐賀大学の7大学病院と、北里大学・北里研究所附属病院、NTT病院、徳洲会の3グループの計10病院群が参加しており、2015年までに1000万人規模のDBが利用できる体制づくりを目指しています。

本事業により医薬品の有効性に関する研究が増加することで、より安全・安心な医薬品処方が可能となり、治療法改善や医療の質向上が期待できます。

新生児蘇生法のインストラクター養成講習会の開催

総合周産期母子医療センター 講師 日下 隆

2012年9月1日(土)に、新生児蘇生法「専門」コースインストラクター養成講習会を、香川大学医学部総合周産期母子医療センターが主催し、地域医療教育支援センターの協力で行いました。本講習会は、日本周産期・新生児医学会の新生児蘇生法(NCPR)普及事業の一環であり、国際蘇生連絡委員会(ILCOR)による『2010 Consensus on Science with Treatment Recommendations (CoSTR)』を受けた、日本版救急蘇生ガイドラインに基づくものです。分娩に立ち会う医療スタッフを対象に、標準的な新生児蘇生法の理論と技術に習熟させることにより、全ての新生児の救命と重篤な障害の回避を目的としています。本講習会では、「臨床知識編」「実技編」及び「指導編」で構成されたコースを行い、全国から受講者16名と教育スタッフ8名、事務スタッフ5名が参加しました(うち香川大学医学部からは教育スタッフ3名、事務1名が参加)。

香川大学総合周産期母子医療センターは、全国12か所にあるNCPR普及事業の四国で唯一のトレーニングサイトであり、その地区におけるNCPRの中心的な施設です。各地区のNCPR講習会の開催への協力、スキルアップのための活動なども継続して行なわれています。

また、今年12月には香川県周産期医療従事者研修会が開催され、そのプログラムの中では、出生時に胎外呼吸循環が順調に移行できない新生児に対して、いかにして心肺蘇生法を行うべきかを学ぶ、実践的な新生児蘇生法「専門」コース講習会も行われています。



国及び香川県主催の総合防災訓練

救命救急センター長 黒田 泰弘

今年の国訓練(9/1)は過去最高規模でした。四国とくに高知および徳島が被災した、病院機能が破綻したとの想定で、高知は愛媛が、徳島は香川が物資補給および傷病者搬送前線基地となり、空路あるいは陸路から全国のDMATが集結しました。さらに自衛隊の参加も最大規模であり、高知沖には護衛艦「伊勢」が停泊し、洋上SCU(staging care unit)が初めて実働訓練されました。全国からDr.ヘリおよび防災ヘリも集結する予定でしたが、諸事情で中止となっています。しかし、ヘリの飛行経路をpc画面上でリアルタイムに表示するシステムの公開されていました。大学DMATチームは統括DMATを中心に県庁の災害対策本部に詰めて、高松空港にあるSCUとの連絡調整を行いました。トランシーバーの使い方や、情報伝達まとめの訓練を今まで繰り返してきた成果もあり、一定時間内で何とか決着をつけることができました。皆様のご協力に感謝申し上げます。

次の日の県訓練は三木インター近くの県造成地で炎天下行なわれました。とにかく暑かった。倒壊家屋、交通事故、などの現場から救出された患者の現場トリアージ、救護所治療、搬送病院決定、などにおいて現場指揮本部にDMATとして参加しました。現場指揮本部における横の連携、つまり消防、警察、自衛隊、自治体などとの調整はやはりなかなか難しいものがあります。シナリオが決まっている訳ですが、それでも情報の正確性には常に注意が必要であること、再認識する訓練でした。

大学DMAT隊もかなり訓練に参加し、経験を積んできています。今後も皆様のご協力ご理解をよろしく願致します。参加された皆様に御礼を申し上げます。



地域医療教育支援センター運営委員会が開催されました

地域医療教育支援センター長 大森 浩二

平成24年10月2日に高松市内で平成24年度第1回地域医療教育支援センター運営委員会を開催しました。出席者は、当センターの構成員である内海、土庄中央、陶、坂出市立、香川済生会、三豊総合病院と綾上診療所の代表者、当院の千田病院長、石田前病院長、当センター学内運営委員らと、香川県庁からは東原医務国保課長らの総勢21名でした。最初に千田病院長から27年度に計画されている卒後研修制度や専門医制度の改正に備えて、卒前教育が重要となる中、地域医療実習(5、6年生が、同センターに含まれる地域医療担当病院に出向いて行う体験型の実習)に関する関連施設のご尽力に感謝していますとの挨拶がありました。続いて、10番目の新しい教育施設として香川県立白鳥病院の参加が承認され、同センターの上半期の事業・会計報告に続いて、今年4月にオープンした臨床技能訓練施設(スキルラボラトリー)のウェブサイトと医学部外からの利用方法の説明がありました。続いて、今年度の地域医療実習について、学生の到達度や実習サービスの評価を数値化して解析した結果、昨年の同時期に比べて成績が概ね向上していること、また、この実習を通して、地域医療のイメージがつかめた、将来これに従事してみたいとする学生が8割を超えるなど、その意義を裏付けるデータが報告されました。さらなる充実のために、学生の滞在が半日~1日の施設は、2日コースにするなどの提案があり、来年度の時間割に早速取り入れることで意見が一致しました。最後に石田前病院長から、当センターは継続性を担保するため附属病院内に設置したので、今後、さらに各施設の特徴を生かした地域医療実習、シミュレーション教育などを発展させて欲しいと挨拶があり2時間に及ぶ会議を終了しました。

このセミナーは、がん診療連携拠点病院が行うべき事業の一つで、がんに対する化学療法と放射線療法について県内の医療者を対象として定期的に行われています。がん診療連携拠点病院とは、「がん対策基本法」に基づき、全国どこでも質の高いがん医療を提供することができるよう、がん医療の均てん化を目標に整備され、香川県では都道府県がん診療連携拠点病院として唯一本院が指定されています。

平成24年10月30日(火)18:00より臨床講義棟1階講義室において、内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科学 松永教授の司会により、第3回香川県がん診療連携拠点病院研修セミナー「がんの分子標的療法について」が開催されました。

参加者は院内外より医師、薬剤師、看護師等合わせて60名でした。千田病院長より開会の挨拶を頂き、がんの化学療法について4人の専門家の先生方に以下のとおりご講演頂きました。

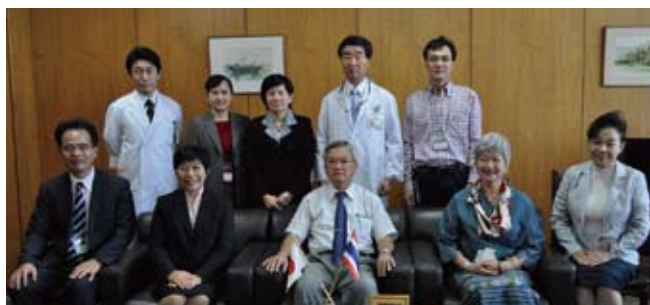
- 1 筧 善行(泌尿器・副腎・腎移植外科 教授)
「泌尿器がんの薬物療法:前立腺がんと腎がん」
- 2 合田 文則 (腫瘍センター長)「分子標的薬による胃癌・大腸癌の治療」
- 3 紺谷 桂一 (呼吸器・乳腺内分泌外科学 准教授)「乳癌におけるHER2分子標的療法の治療効果と効果予測因子の同定」
- 4 朝倉 正登 (薬剤部 薬剤主任)「分子標的治療薬の infusion reaction とその対策」



タイ国チェンマイ大学医学部・看護学部の先生方が医学部と病院を訪問しました

国際交流委員会委員長 徳田 雅明

チェンマイ大学(CMU)は香川大学の海外展開重点大学です。両大学の研究者や学生が集まり9月19日~21日に、香川大学(幸町キャンパス)で第4回香川大学・チェンマイ大学合同シンポジウムが開催されました。それに参加されたCMU医学部2名(シフポン先生、プラパン先生)と看護学部3名(ティティナット先生、カノックポーン先生、ロジャーニー先生)の5先生が、9月19日(水)に香川大学医学部(医学科・看護学科)と附属病院を訪問しました。日本とタイとは多くの共通した医療課題を抱えており、例えば認知症、糖尿病および合併症などはチェンマイでも大きな医療課題となっています。5名の先生方は大変精力的に精神神経科・脳神経外科・看護部などを見学され、香川大学のこうした問題への取り組みについて学ぶとともに、タイの医療システム、看護・介護システム、マッサージなど補助療法の展開などについて情報交換をされました。病棟では日本の患者様の大変行儀良く整然とした患者振りと、看護介護スタッフの親身関係が印象深かったようです。見学全体を通じて友情に満ちた交流ができ、今後益々の協力を約束しました。



「お月見で笑(ショー)」が開催されました

患者サービス課

9月19日(水)18時30分から、医学部附属病院1階玄関ホールで今年度2回目となる秋の院内イベントを開催いたしました。題して「お月見で笑(ショー)」です。

平成21年度から始めた秋の院内イベントは、今年で4回目となります。

今回もNHK文化センター高松教室で「お笑い福祉士入門(講師:落語家 笑福亭學光)」を受講している6人が、当院の入院患者さんに早く良くなってもらうことを願い「笑いは健康の源」として落語・手品・南京玉すだれ等を披露してくださいました。



院内イベントのお知らせ

患者サービス課

平成24年を閉めくくる二つの院内イベントを開催いたします。

一つ目は、12月10日(月)から14日(金)に行う「職員作品展示会」です。皆さんと病気に立ち向かう当院教職員が日々の診療業務の合間に作成した力作を皆さんに鑑賞して頂き、共に戦う同志の知られざる一面をお見せします。平成4年度から始めたこの作品展示会は数えて21回目となります。

二つ目は、12月12日(水)に開催する60分間の「第22回クリスマス音楽会」です。毎回トリを勤める新人看護師合唱隊が皆さんに元気になってもらえるような歌を選曲し披露します。

看護職員募集

看護師・助産師

80名募集

応募締切日

平成25年1月8日(火)

試験日 1月18日(金)

お問い合わせ先 **087-891-2320(看護管理室)**

イベントカレンダー H24.12月~H25.2月 予定表

日時	時間	場所	名称及び内容	担当	連絡先
12/1 土	10:30~18:00	臨床講義棟1Fほか	平成24年度香川県周産期医療従事者講習会 新生児蘇生法講習会(Aコース)	周産期科 女性診療科	(087)891-2174
12/4 火	17:30~19:00	香川大学生涯学習 教育研究センター	香川大学公開講座 第2回「手術は、その周囲環境はどう変化したか」	手術部	(087)832-1273
12/11 火	17:30~19:00	香川大学生涯学習 教育研究センター	香川大学公開講座 第3回「手術と手術室の安全を支える」	手術部	(087)832-1273
12/12 水	19:30~20:30	こどもと家族・こころの診療部	発達障害学校・医療連絡協議会	こどもと家族・こころの診療部	(087)891-2420
12/15 土	9:30~11:00	香川大学 医学部附属病院手術室	香川大学公開講座 第4回「手術室の概説と見学」	手術部	(087)832-1273
1/8 火	18:00~	臨床研究棟4F A会議室	第17回 最新医学研究会(血液)	内分泌代謝・血液・ 免疫・呼吸器内科	(087)891-2145
1/9 水	19:00~20:30	こどもと家族・こころの診療部	発達障害学校・医療連絡協議会	こどもと家族・こころの診療部	(087)891-2420
1/18 金	14:00~16:00	患者図書室オリブの郷	がん患者サロン	腫瘍センター	(087)891-2363
1/21 月	17:30~18:30	臨床講義棟1F	NST勉強会	腫瘍センター	(087)891-2054
1/31 木	18:00~	ホテルクレメント高松	香川整形外科セミナー	整形外科	(087)891-2195
2月	(未定)	(未定)	第60回香川脳神経外科談話会	脳神経外科	(087)891-2207
2/13 水	14:00~16:00	病院地下カンファレンスルーム	平成24年度 第3回肝臓病教室	地域連携室	(087)891-2417
2/13 水	19:00~20:30	こどもと家族・こころの診療部	発達障害学校・医療連絡協議会	こどもと家族・こころの診療部	(087)891-2420

外来駐車場は患者さんのもの!!
駐車ルールを守りましょう!!

編集委員会: 石井(看護), 石川(外来), 岩瀬(病棟), 岡田(総務)
(50音順) 鬼村(患者サービス), 梶川(検査), 加藤(放射線)
白神(麻酔), 芳地(薬剤), 松本(看護), 安友(管理)
横井(情報) [委員長 千田病院長]